

作家の肖像

第 9 回

このコーナーでは、
毎回一人の作家を取り上げ、
美術評論家の酒井忠康先生に、
お話をうかがいます。

撮影 土門拳



棟方志功

1903-1975

むなかた・しこう
1903年青森県生まれ。板画家(棟方は自身の版画を「板画」と表現していた)。尋常小学校卒業後、仕事の傍ら油絵を独学。24年に上京し、28年に帝展で油絵「雑園」が初入選。以後、版画を始め、36年に国画会展に「大和し美し」を出品し柳宗悦らと出会う。56年にヴェネチア・ビエンナーレで日本人初の国際版画大賞を受賞。69年に青森市名誉市民賞を受け、翌70年に文化勲章を受章。享年72歳。

純粋なエネルギー

はん が むなかた しこう
板画家・棟方志功さんは、私の師・
土方定一(※1)と親交があり、一度お
会いしたことがあります。

晩年、志功さんが大病を患って自
宅で療養されていると聞き、私はお
見舞いのメロンを二つ抱え、棟方家
を訪れました。玄関先で、土方から
預かった伝言とメロンを手渡すと、
志功さんは「ありがとう、ありがと
う」と言っ、私を抱きしめてくれ
ました。病で瘦せた身体とその体温
だけが、鮮烈に印象に残っています。

志功さんは、いつもそうやって感
情を全身で表現する人でした。私が
勤めていた神奈川県立近代美術館で
講演してくれたときは、身振り手
振りで話し、聴衆を魅了していまし
た。しかし、決して能弁なわけでは
ない。津軽弁で聞き取りづらく、と
きどき、感情が高ぶって口をつぐん
でお祈りをすることもあります。し
かし、それが逆に、聞く者の心にす
っと入ってくる。彼の純粋なエネル
ギーが、人々の心をつかむのだと思
います。

ある種の「宗教者」

志功さんは、青森の鍛冶職人のも
とに生まれ、15人兄弟だったため、
貧しい環境で育ちました。絵が好き
で、小学校卒業後は働きながら絵を
描き続け、18歳のときにゴッホの作
品を見て衝撃を受けて、「わだば(私
は)ゴッホになる」と決意した……
というのは有名な話です。

彼は生まれつき目が弱く、何かを
じっくり観察して写實的に絵を描く
ことができませんでした。その弱点
を自覚し、また、川上澄生(※2)の作
品との出会いや、尊敬するゴッホが
浮世絵を高く評価していたことなど
から、25歳の頃に木版画を自分の表
現にすることに決めます。

志功さんが版画を彫る姿は、一種
異様です。顔を板に極限まで近づけ、
恐ろしいスピードで彫刻刀を走らせ
る。私は、彼が自分の意思だけでな
く、何か大きなものに急ぎ立てられ
て彫っているような気がしてなりま
せん。彼は自叙伝『板極道』で、「こ
ころの中に美が祭られているのだ。
それを描くのだ」と述べています。

自分の内的な世界を表現するために、
念じるように板を彫り、その作品を
紙に刷って多くの人々に頒布する
——私には、彼がある種の「宗教
者」のように感じられます。

自分の言葉をもつ人

志功さんの作品でいちばん好きなのは、やはり「二菩薩釈迦十大弟子」。
圧倒的な力をもつ大作です。

彼の作品には、詩や言葉が刻まれ
ていることが多いのですが、彼自身
が紡ぐ言葉もまたすばらしい。先に
述べた『板極道』は、自叙伝の傑作
で、彼の半生が、生き生きとした文
体で綴られています。志功さんは、
宮沢賢治のような独自の言葉をもっ
た人です。彼の言葉に触れることで、
棟方作品が、より広がりをもって感
じられることでしょう。(談)

※1 土方定一(1904-1980) 美術史家・美術評論家。
神奈川県立近代美術館館長として一時代を築いた。
※2 川上澄生(1895-1972) 版画家。
絵と詩が共生する作品は、棟方に多大なる影響を与えた。

酒井忠康

さかい・ただやす
世田谷美術館館長、美術評論家。
1941年北海道生まれ。慶應義塾大学卒業。
神奈川県立近代美術館館長を経て現職。
光村図書中学校『美術』教科書の代表著者。



上／「歓喜自板像・第九としての櫓」
木版彩色 1 冊 47.7×37.5cm 1963年
左上にはゴッホ、右上にはベートーヴェン、中
央上には、敬愛する柳宗悦の墓。そして、身の
回りには、親交の深かった河井寛次郎らの作
品が並べられ、寝転がっている自身の右手は、
チャ夫人とつながっている。60歳のときに
制作した自板像。(棟方志功記念館蔵)

下／「二菩薩釈迦十大弟子板画」(1～8)
木版 12 冊 各101.5×38.0cm 1939年
等身大の仏画を制作したいと考えていた棟方
は、興福寺の須菩提像を見て感激し、釈迦の弟
子たちと二菩薩を制作。この生命感あふれる
傑作は、サンパウロとヴェネチアの両ビエン
ナーレで受賞し、棟方の名を一躍世界へ知ら
しめることとなった。(棟方志功記念館蔵)



ふ げん ぼ ぎ つ ざ く
普賢菩薩の櫓

も ぐ けん れん
目犍連の櫓

し め ぼ だ い
須菩提の櫓

ま か せ り ょ う
摩訶迦葉の櫓

し ゃ り ぼ つ
舍利弗の櫓



う ば り
優婆離の櫓

ら ご ら
羅睺羅の櫓

あ ん だ
阿難陀の櫓

あ ち り つ
阿那律の櫓

ふ る な
富楼那の櫓

か せん ん
迦旃延の櫓

もん じ ょ ぼ ぎ つ
文殊菩薩の櫓